

駅カード

これらのカードは、3つの異なる方法で使われます。カードをプレイする際、どの方法で使うかを決めなくてはなりません。

特定の色（縦の列）の駅として、



テーブルの上に、駅または乗客を表にして置きます。

あるいは、

特定の色（横の列）の乗客として、



あるいは、

新しい車両の料金を払う1000マルクとして。



お金の面を上にして裏向きにして置きます

ゲームの目的

10回の得点計算といくつかの特別計算の間に最も多くの勝利点を得たプレイヤーの勝ちです。

この目的を達成するために、カードを縦の列に昇順にプレイ（ステップ2参照）していき、路面電車ルートが敷設し、拡大していきます。縦の列を作っていくためには、路面電車カードを購入して、それを縦の列に割り当てる必要があります（ステップ4参照）。得点計算は、ある色の乗客が4人いる（ステップ1と得点計算参照）か、縦の列に8枚駅が並ぶと（特別計算参照）、起こります。

セット・アップ



C) 最も最近路面電車に乗った人がスタートプレイヤーになります。そして、山札から12枚のカードを引き、自分の前にお金の山札として置きます。カードの表側を見てはいけません。これは、新しい車両を購入するためにだけ使える12000マルクになります。相手プレイヤーは、15枚のカードを引き同様にします。さらに各プレイヤーとも6枚のカードを引いて手札とします。手札のカードは3つの方法（乗客、駅、お金）として使えます。相手に表面が見えないようにします。

D) 乗客を並べることができるようにテーブルの場所を確保します。4枚の終着駅カードを、縦1列に並べます。各終着駅カードの横に4枚分のカードが並ぶように空けます。



A) 駅カードと車掌カードを一緒にしてよく混ぜ、お金の面が上になるように裏向きにして、テーブルの中央に山札をつくります。

B) 路面電車カードを価値によって分けます。そして、4点の電車が一番下、3点の蒸気鉄道が真ん中に、2点の馬車鉄道を一番上になるようにして置きます。そして上の3枚を表向きに並べます。最初に購入できる車両です。

12枚のカード（12,000マルク）
スタートプレイヤーの資本

15枚のカード（15,000マルク）
相手プレイヤーの資本

6枚の手札

E) プレイヤーの手元にも自分の路線のカードを並べるスペースが必要です。（ある程度重なっても構いません。ルール上、路線の乗客と路線上の駅を区別するために、「縦の列」と「横の列」の用語を使います。）

F) 最後にスタートプレイヤーは得点パッドと筆記具（これは含まれていません）をもちます。得点経過を記録していきます。これでゲームが始まります！

プレイの流れ

手番は交代に進めます。自分の手番には、以下のアクションを順番に続けて行います。

1 乗客カードを置く

手札から乗客として1枚または2枚のカードをプレイしなければなりません。終着駅カードと同じ色の乗客カードを、カードの横の列に付け加えていきます。2枚カードをプレイするときは、違う色のカードでも良いですが、それぞれ横の列の色と合ってなくてはなりません。車掌カードはどの列にも足すことができます。

注意：4人目の乗客が列に足されるや否や、その色の全ての縦の列は直ちに得点計算されます。（得点計算参照）

補足：1枚の乗客で得点計算後、2枚目のカードを出せます。さらにその後の手番も行えます。



例：あなたは車掌と赤いカードをプレイします。そして、両方のカードを赤い列に加えます。赤い列がすでに2人の乗客を持っているので、すぐに得点計算が発動します。

2 駅を置く

手札から自分の手元へ、任意の枚数のカードをプレイすることができます。色ごとに別々の縦の列へ路線の列に対応するようにプレイします。各列では、その価値が昇順になるようにプレイしなくてはなりません。間の数字を飛ばすことはできません。もしカードを追加できなければ、新しい列を始めます。列は価値10の駅カードが足されると完成です。

完成させないように、何枚でも車掌カードを足すことは可能です。車掌カードは全く勝利点を与えません。それらは特別計算を完成しやすくするためにあります。1つの列に何枚でも車掌カードを足すことができます。

縦の列に8枚のカードが足されたら（駅と車掌を含み、路線カードは数えませんが）、直ちに特別計算の始まりです。

補足：同じ価値のカードは置けません。10のあとに車掌は置けません。

注意：同時に同じ色で複数の列を持つことができますが、それらはそれぞれ路面電車カードを必要とします。



例：緑の縦列に3をプレイします。既に緑の列には4 - 7 - 9が並べてあるので3を追加することができないため、新たな緑の列を始めます。それから車掌カードと6を赤の列にプレイします。それらは赤の列の2 - 3 - 5の後に足します。特別得点計算をするために8枚のカードをならべる旅の始まりです。



3 収入

自分の資本金を増やすために、お金の山札に手札から任意の枚数のカードを追加することができます。各カードは1000マルクです。

4 電車の購入

規定のコストを支払い、利用可能な路面電車カードを1枚以上購入することができます。支払いには、山札のお金のみ利用できます。手札や列のカードを使うことはできません。使ったお金は捨て札置き場に置きます。

購入したら、路面電車カードを、まだ路面電車カードが置かれていない縦列の1つに、直ちに割り当てなくてはなりません。一度割り当てたら、変更はできません。新たな列を維持したいなら、新しい路面電車カードが必要です。

路面電車のカードの補充は、直ぐには行いません。自分のターンの終了時のみ行われます。



例： サプライには2枚の馬車鉄道と1枚の蒸気鉄道があります。このターン、あなたは2列を新しく始めたので、2枚の路面電車カードが必要です。本当は蒸気鉄道が2枚欲しいところでした。しかし、1枚しかありません。仕方なく、蒸気鉄道1枚と馬車鉄道1枚を購入します。15枚のお金カードを山札から捨て札へ移動します。

補足：空の列に列車だけ置くことはできない。

5 新しいカードを引く

路面電車カードがない縦列が自分の手元にある場合、これらのカードは取り除き、お金の山札に載せます。最後に、ちょうど6枚になるまで山札からカードをひき、手札にします。

山札がなくなったら、双方のプレイヤーはともに、お金の山札を半分捨てなくてはなりません(端数切り捨て)。そして捨てカードをよく混ぜ、新たな山札とします。

得点計算と特別得点計算

終着駅カードに4人目の乗客が並ぶとすぐに得点計算に入ります。2人ともその乗客が並んだ横の列と同じ色の、自分の縦の列の路線の得点計算をしなければなりません。縦の列の得点は、列に並んだ駅カードの勝利点を合計し、路面電車カードの価値とかけ算をします。得点パッドに得点を記録します。

その後、その横の列の乗客カードを捨て札にします。自分の縦列の駅カードは捨てません！

補足：何回も計算の対象になるということ。

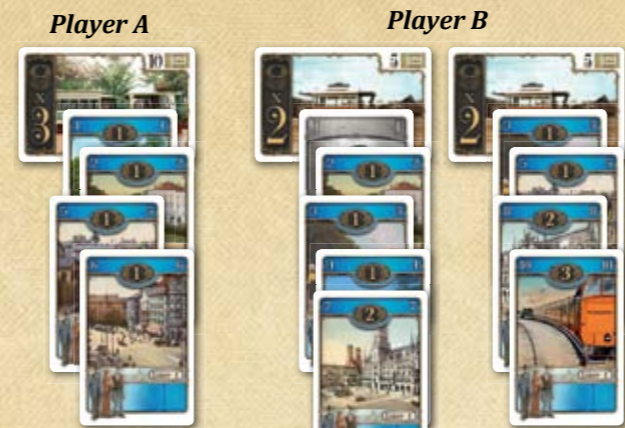
縦列に8枚目のカードが置かれたら(車掌と駅だけを数えます)、直ちにその縦列の得点計算を行います。得点パッドの特別計算の欄に記入します。各縦列は、一回のみ特別計算ができます。9枚以上のカードが足されても特別計算は起こりません。

補足：計算パッドに欄はありませんが、各列一回ずつは特別計算はできます。

ゲームの終了

ゲームは通常の得点計算が10回行われたら直ちに終了します。特別計算は通常の得点計算には入りませんし、ゲーム終了の合図にはなりません。

そして通常の得点と特別計算の得点を合計し、最も高得点を得たプレイヤーの勝利です。同点ならお金をたくさん残している方、それも同じならもう一度勝負をして決着をつけましょう。



例： 4人目の乗客が青い終着駅カードに足され、直ちにその色の得点計算が行われます。プレイヤーAは、1-2-5-6と蒸気鉄道(価値3)からなる青いカードの列をもって、得点は12点です。プレイヤーBは、2つの青い列から24点を得ます。馬車鉄道の車掌-2-3-4-7から10点と、もう一列の馬車鉄道3-5-8-10から14点です。

路面電車



2人用カードゲーム
by Helmut Ohley

19世紀の終わりのミュンヘン：新しい路面電車は大盛況で一層の拡大が求められています。新しい路線が敷かれ、駅が建設され、需要の増加で、既存の路線も車両が増強されます。

一方、技術的進展は、いくつかの大きな変革をもたらします。馬による馬車鉄道が、まず、蒸気鉄道に、さらに電気鉄道へと置き換えられていきます。プレイヤーは、競争している鉄道会社の社長です。結局のところ、1つの路面電車会社が生き残るだけです。どちらが競争相手を破ることができるでしょうか？

内容物



16枚の路面電車カード
馬車鉄道(価値“2”):5枚
蒸気鉄道(価値“3”):4枚
電気鉄道(価値“4”):7枚



8枚の車掌カード
どんな路線にもつなげることができる
ワイルドカードですが、全く勝利点を与えません。



112枚の駅カード
4色各の28枚(色はの路線を表します)
各色：価値1と価値10が2枚ずつ、価値2から価値9が3枚ずつ



4枚の終着駅カード

2枚のサマリーカード
英語とドイツ語で

1枚の得点パッドとこのルールブック

The historic illustrations are from wikimedia.org and from the publisher's own archive. Special thanks to Klaus Onnich and the archive of the MVG museum in Munich for letting us use the illustrations on the tramway and conductor cards.

Designer: Helmut Ohley
Editing: Stefan Stadler
Layout: Klemens Franz | atelier198



© 2015 Lookout GmbH
Hiddigwarder Straße 37,
D- 27804 Berne, Germany.



MAYFAIR GAMES
www.mayfairgames.com

Mayfair Games, Inc
8060 St. Louis Ave.
Skokie, IL 60076

赤字の補足は、BGGのフォーラムを参照して付け足したものです。